

174号

第20回参議院選挙 推薦候補全員が当選

第20回参議院選挙は7月11日に投・開票が行われ、連合神奈川の推薦候補すべてが当選した。

神奈川選挙区では、あさお慶一郎候補が856,504票を獲得、ちば景子候補は843,759票を得て、3議席中2議席を確保した。

比例区でも連合神奈川の推す8候補がすべて当選。まさにパーフェクトな勝利となった。比例区の得票率は以下の通り。

比例区候補者

氏名	政党	構成組織	得票数	
高嶋良充	民主党 現1	自治労	167,818	当
柳沢光美	民主党 新	UIゼンセン同盟	216,760	当
直嶋正行	民主党 現2	自動車総連	211,257	当
加藤敏幸	民主党 新	電機連合	247,917	当
津田弥太郎	民主党 新	JAM	162,509	当
那谷屋正義	民主党 新	日教組	202,612	当
小林正夫	民主党 新	電力総連	301,322	当
内藤正光	民主党 現1	情報労連	220,311	当

2004植樹祭

猛暑の中、環境保全猛暑の中、環境保全

2004年度神奈川県勤労者植樹祭下草刈りは7月24日(土)、津久井郡津久井町長竹の植樹林で行われ、112名が参加した。

植樹祭は環境保護、保水、自然災害防止などの観点から、連合神奈川が1991年から取り組んできたもの。参加者らは猛暑の中、インストラクターの指導を受けながら、木の根本をおおう下草を刈り、幹に巻きつくツルなどを取り払った。すくすくと育つ木々は、参加者の背丈をはるかに超えるほどに生長したが、まだまだ人の休める木陰を作るほどではなく、降り注ぐ陽光と地面から立ち上る熱気にあおられ、参加者らは全身汗まみれ。配布されたお茶を口に含み、休憩を取りながら作業を進めた。

急斜面での作業はハードなものとなったが、草刈りの終わった斜面はさすがしく、参加者らからは「これで少しでも環境が良くなれば、猛暑もやわらぐのでは」などの意見もあった。

昼食は清川リバーランドでのバーベキューで交流を深めた。

連合男女平等月間で街頭行動

6月の『連合の日』行動は「男女平等」をテーマに、女性委員会らと連携し、活動を展開した。

連合神奈川は毎月5日を『連合の日』として活動を展開している。連合男女平等月間の6月は、女性委員会、男女平等参画推進委員も参加して、桜木町駅頭で啓発行動を行った。

今回は通勤のサラリーマンだけでなく、主婦やパート労働者などにも広く呼びかけ、ビラを配布。家庭内での家事の分担や職場環境改善などを訴えた。

国際交流 アフリカ労組研修団と交流

6月17・18日、連合神奈川は国際労働財団が招聘した「アフリカ英語圏若手労組指導者研修団を受け入れた。

全通が名称変更

「全通」から「日本郵政公社労働組合」(略称:JPU)に
全通は組合名称を「日本郵政公社労働組合」(略称JPU)に変更した。これは昨年12月の臨時大会で決定されたもので、6月23日から実施されている。

第15回中央委員会を開催 政策・制度要求と提言を決定

連合神奈川は7月21日、ワークピア横浜で、第15回中央委員会を開催。代議員ら86名が参加し、「2005年度に向けた政策・制度要求と提言」などを決定した。

委員会は連合神奈川柏木副事務局長の司会で幕を開け、船生代議員(自治労)を議長に進められた。冒頭、主催者を代表して演壇に立った連合神奈川真壁忠利会長はエコロジー運動の一環としてノーネクタイ運動を進めるなか、上着を脱いであいさつ。参議院選挙について「下支えをして

くれた仲間たちの苦労に報いるためにも、負けるわけにはいかないと考えた」「自民党の議席数を上回り、新しい局面が見えてきた」「この高揚した意識を継続させるため、毎月5日の『RENGOの日』や『多聞善塾』で年金やイラク問題、さらに雇用など論議を深めていくことが大切だ」とし、「当面する問題、世の中の不条理、不合理に正面から立ち向かっている姿勢を示していかなければいけない」と語った。

資格審査に続いて藁科満治民主党県連代表、当選を果たした浅尾慶一郎、千葉景子両参議院議員から参議院選挙に対するお礼の挨拶があった。

浅尾議員は「日頃からの付き合いを大事にし、生活の密着した政策の実現をはかりたい」と意気込みを語り、千葉議員は「真の意味での民主主義の確立をはかり、政権交代の実現を目指す」と決意を表明した。3氏には連合神奈川から花束が贈られた。

続いて報告に移り、今会では新しい試みとしてスライドによる活動経過報告が行われた。中間会計報告のあと、2005年度に向けた政策制度要求と提言が提案され、満場の拍手で決定した。

活動報告のあと、横浜地域連合から①政令指定都市地協(地域連合)会議を横浜で開催し、106名の参加があった、②よこはまふるさと祭りのチャリティで三宅島へ延べ150万円のカンパを送った、③参議院選挙では公営掲示板行動、法定ビラ配布、投票に行こうよ運動等を行った。との発言があった。

今回で決定された『2005年度に向けた政策・制度要求と提言』は、8月初旬に神奈川県、横浜市、川崎市、労働局に要求書を提出。各議会党派、経営者団体との意見交換、県部局との意見交換などを通じて実現を目指す。

を押しし天城を日拍しといへ。

トップセミナー 民主党のめざす社会と政治

連合神奈川は7月21日、第15回中央委員会に続き、トップセミナーを開催。講師には藤井裕久民主党幹事長を招き「民主党のめざす社会と政治」をテーマに講演を受けた。

「アジテーター政治家で世の中を良くした人はいない。小泉氏はそのアジテーターである。

どんなに逆風が吹いても、自民党は選挙で票を取る。民主党のほうが明らかに優秀なのだが、能力の高さが得票に結びつかない。票を取るのはいかに地域と密着しているか。地域との密着とは、政策を、地域に行き行って訴えること。盆踊りでもなんでも、地域のイベントに参加し、顔を見せること。このところが民主党の若手にはわかっていない。笹森連合会長も「自民党のどん欲さを見習え」と言った。呼ばれてもいない結婚式に行くのが自民党。決して良いやり方だとは思わないし、品性も劣る。しかし、その部分が民主党にない。なにが問題かということ、民主党のやっていることを地域の人たちに説明していないということ。自民党は公明党に後援会の名簿を渡した。命の次に大事なものを渡した。これは公明と自民が一つの政党だということだ。

年金問題は国民が否定していること。国会で強引なことが行われたら、全国キャラバンを行う。その時は連合の皆さんにもご協力いただきたい。野球にたとえると、組織の中ではスラッガーであっても監督の指示があればバントも打つ。ホームランバッターばかりでは強い球団になれない。スタンドプレーではなく、組織が強くならなければならない。公認した議員の中で、検証をやる。遊んでばかりの議員は切り捨てる。政策は未来から現在を見る視点を持たなければならない。失敗する。自民党の年金対策がまさにそう。そろばん勘定だけではダメ。社会保障というものは現在の仕組みを前提としてはダメ。未来から現在を見る、それが民主党的視点になる。

自立経済、独立自尊の経済をつくるにはしっかりと社会保障がなければならない。

自らの判断で行動できる個性教育をしなければならない。それは「人間のあり方」を教えるもので、決して「日本人のあり方」ではない。普遍的な人間としてのあり方を学ぶことが大切。それは家庭を基本とした人間としての生活のあり方だ。それが教育の原点となる。

昭和12年、蘆溝橋事件が起きた時に、政府は事件は事件として終わらせると言った。しかし年末には南京を攻略し、その後日本は戦争に突入していく。すべては現状追認で、勝てばどんどん進められ、負ければ玉砕。その認識の甘さが戦争につながり、私自身は東京で3度の爆撃を受けた。僕の小学校の友達も大勢死んだ。小泉首相はイラク問題に関して、同根だと思う。これは個人的な感情だが、小泉政権をつぶすことができなかつたら、いずれ鬼籍に入った時に、あの戦争で命を落とした友人たちに謝らなければならない」

政策討論集会

6月16日、ワークピア横浜で開催。

北嶋守(財)機会振興協会経済研究所研究統括課長兼研究主幹より「産学官金労の可能性」について講演を受けた。

続いて、柏木副事務局長から其調提案後、2つの分断会に分か

概して、国土副事務局長が中心となって、その方針をめぐって討議。参加者は連合神奈川議員団を含め130名。本紙『カレント』では、来号から政策制度要求と提言の重点課題を順次解説していきます。

連合神奈川

ノーネクタイ運動実施中！

連合神奈川では、昨年からのノーネクタイ運動を実施。地球温暖化防止運動としてアピールを行っています。